夕刊 磐城新聞

二月二日發行

[illegible]

日曜祭日翌日休刊

東北地方振興卑見 一

衆議院議員 海軍中將 八角三郎

（次は來紀元節當日内郷政友支會總會に臨席する同代議士最近の發表論文で此際武人選良の横顔を窺ふべく敢て抄錄すと）

本年の東北地方の冷害は誠に慘澹たるもので、實見者に非ずば想像も及ばない處である。此の凶作一つでも中々に救はれぬものがあるに、加ふるに海嘯、大洪水の慘害、又は財界不況以來、銀行破綻の續出等斯かる質ね〳〵の不幸は天譴に非ずやを思はしむる程の有樣であつて、而も其大部分は自然力の致す處〔し〕あるとは云ひながら其緯度からしても決して高緯度とは云ひ難く又海流の恩惠少なしとは云ひながら絶無ではなく、或は却つて漁場としての恩惠大なるものがある。從つて或る意味に於て世界の同緯度地方に比して寧ろ好條件を具備して居るとも言ひ得るのであつて、之れが開發振興の根本義に觸れ、地理的特殊性を確實に認識して、且つは天産天力を利用するの方策を講せば、面目を一新して無限の天惠に浴し得ること決して難事に非ざるを思はしむるものである。門外漢たる自分が所見を申述ぶるは誠に烏滸がましき至りであるが鷄肋として御一考を願ひ度い次第である

第一に東北地方の開拓の餘地あることは南滿洲地方の夫れよりも大であり、雨量の點よりしても必ずや優れるものがあり得ると信ずる。只開墾開拓と云へば米田に限る如き考へを以て、從來通り處理せらるゝことは根本に於て三思の餘地ありと考へざるを得ない。例へば今年の冷害、然かも屢々凶作として過去に於て襲はれたる冷害の實績よりして、從來の耕地整理の如きは寧ろ之れを灌漑水の整理に重きを置くべからざりしに非ずやを思はしむるものがあると同樣に、徒らに利益の末に走らず、根本的研究よりして天然力を無視したる多收獲米作主義を改め國力を以て適當なる根本方針を樹立し、永遠の方策を定め開拓に當るべきものなりと信ず

第二は地下の富源開發である、東北地方に於ける地下の富の大なることは恐くは全國に其比を見ざる處である。然らば此の地下の富源を開發することは獨り東北地方に幸するのみならず實に我國の富の開發であり此の地下の富の開發は必然的に産業の勃興となり、自然力に打ち勝つ唯一の方法であり、捷徑である

潮聲硯靜抄帳

例會席上互選

川前溪谷

ひさこさけてもみする一人二人かな　鶴歩

溪谷にこだまもとめてもみぢ狩り

桂月翁句碑

文豪を偲びてしばし紅葉茶屋　香村子

向つ嶺のもみぢ葉もゆる入日かな　何鳴

瀧を背にカメラにならぶ紅葉狩　武門

色鳥の鳴く音けうとし紅葉狩　文狂

紅葉狩一と際目立つ松並木　茂堂

靴ぬきて岩に憩へり紅葉狩　花堂

その日

2月3日 △福澤諭吉薨す（明治三四）△米、獨國交斷絶（大正六）△日本軍の上海總攻擊開始（昭和七）△五・一五事件民間側判決言渡（同九）

2月4日 △赤穂義士に死を賜ふ（元祿一六）△元帥陸軍大將伏見宮貞愛親王薨去△陸軍大將黑木爲楨伯薨ず（大正一二）△京圖線明月溝驛貨車衝突警乘兵七名燒死（昭和九）

○近ごろ、人の訃を聞くことしきり。地方事業界の傑物江口忠一氏も遂に逝く——。

講談 戸隱奇譚 山の怪秘 (100)

丸山寛雄作 眞木浪畫

追分走馬燈（二）

「お前さん、今の獲物はどうだつたい、姿や大物と睨んだのだが」

「矢張りお前の眼は高い。これこの通りだ。だが待てよ、明けねば判らぬ玉手箱か」

瀧之丞は茶店の床几の上へ、掴んで來た贓品をぶちあけた

女の髮飾り、たいまい、珊瑚の根がけなどが陽の光りに美しく輝いて現れた

「それに、この縞の財布よえらく持ち重りはするが、小錢ぢや仕樣がねえ」

瀧之丞は、細長い財布の中へ深く手を突つ込みながら、場馴れた仕ぐさである

呉葉は、さすがに女らしく、たいまいや珊瑚の髮飾りを戴くやうに掬び上げて微笑んでゐる

「なんのこつた。小判一枚にあとは一朱銀が五つ。案外見かけ倒した奴だつた」

「まあ、そんなものかね。姿や、お伊勢詣りの夫婦者と睨んだのだが」

「お伊勢詣りにや、こんな貧弱な路銀ぢや行かれねえ大方里歸りに行く土地の者さ」

「あとは綺麗に片附けて來たらうね」

「あの崖の藪だゝみへ蹴込んで來た。思へば罪なことをしたものだな」

瀧之丞は、往來ばたに立つ筧の水を呑んで、手拭を濕し、これで脇の下など拭ひながら草鞋脱いをで上へ上つた

こゝは追分の宿場はづれ沓掛け向きの茶屋である。瀧之丞と呉葉姉弟は岡庭典膳の口きゝによつて、この邊の大細張り沓掛時次郎親分の許しを得て、こゝへ臨時の茶屋を開くことが出來たのだ。しかし根が路銀欲しさの氣まぐれ仕事なので數日もたゝぬ間に手つ取り早いこんな方法の稼業に變つてしまつた。だが有難いことに、茶店といふ表看板があるので土地の者も別段怪しまなければ、又沓掛時次郎親分が許したのだといふので天下晴れて切り取り盜人が出來た」

「しかし何んだな、かう荒稼ぎが雜作もなく出來るとお天道樣にすまねえやうな氣もしてくるよ。茶代を貰つた上に、また有金全部を頂くなんて全く勿體なさ過ぎるぜ」

瀧之丞は柱に凭れて片足を替る替る拭きながら云ふ

「それも、みんな顯光寺如來のおかげだよ。たまには包みを解いて押入れの中へでも、に祀りしてあげたらどうだい」

呉葉は床几の上の煙草盆の位置を直したり、座蒲團の埃を拂つたりする

「おや」

呉葉は瀧之丞の方へ意味ありげな眼差しをくれた。椋鳥が來たから早く奥へ隱れろといふ目報らせである

二人は、段々かうした渡世に興味を覺ねて來た。當初の方針である黄金秘佛を江戸で賣拂ひ、大金儲けをするといふ氣持ちは、勿論二人の胸の底にあつたが、また現在の渡世も惡くはなかつた。

かうなると人間は妙なもので、可成り遠大な抱負や宏遠な理想を持つてゐる者でも、現在の魅力に引摺られ勝ちなものだ。勢ひ緊張味が失はれて來て身体に隙が出來る。色々餘計な考へや計劃に走つてくるのだ

瀧之丞は、たんまりせしめた日などは必ず油屋などの大きな遊女旅籠に上つて翌日までも歸らない時がある。呉葉も呉葉で、ちよくちよく小使錢の無心にくる飄籠屋衆、船人足衆、胡摩の蠅といふ岡庭典膳を奥の間へ引入れていちやつくことも多くなつた

殊に追分の宿は、いんしんを極めてゐただけに、一つや二つ、この種の不正な茶屋が店を張つてゐても宿役人の目は容易に屆かなかつた

磐女校友會誌 かをり から

九品寺のお祭

一年 荒木友子

秋だ。頭に浮ぶ事は笛の音太皷の音、澄んだ大空にたなびく旗

今朝も朗かな日だ。庭に出て空を見たその刹那、大空をつらぬくやうな。けたゝましい花火の音。今日はどこのお祭だらう。つゞけざまに花火が鳴つた

九品寺のお祭りだ。仕掛花火があるさうだ。子供達はうれしさうだ。皆美しい着物を着てお小遣をいたゞいて行くのが樂しみなのだらう。私達も小さい時はさうだつたもの、普通は暗い夜道も螢をあざむくやうな明るさだ。兩側には店が並んでゐる。どこの店にも子供のゐない店はない。鈴の音はしきりに鳴つてゐる。もうそろ〳〵仕掛花火もたりさうだ。家でもそれをまてゐた

けたゝましい音にひょつと大空を見た。美しい大空に又美しい花火が舞ひ上つた。赤、青、緑の星が。それが消えたかと思ふと、下界を見下してゐるやうな、しだれ柳。たゞ私達はぼんやりと美しい花火にみとれてゐた

冬の夜

一年 遠藤靜枝

月も凍るかと思はれる程冷い晩である。私は湯上りの暖かい、いとしい肌をなでながら空を仰ぎ見た。星が一つ二つ數限りなく大空に輝いて居る。丁度ダイヤモンドの樣に。だが又其の奧には偉大な力が籠つて居る樣だ。そして下界の私達に微笑をもらしてくれる樣である。赤、青、黄、さま〴〵な色を放つて、いつたいあの美しい星の中には、どんな動物が植物が、生存して居るのであらうか。私は自分の體の冷たくなるのも忘れて、大空の美しい星の光に見とれて居た。折から吹いて來た風に、頬をなでられてはつと我にかへつた。青白い月の光は螢をあざむくばかりに照つて居た

湯上りにふと仰ぎ見し大空の、星の光にしばし見とれぬ

…◇…◇——

三日（小名濱測候所調査）

日出 六、三七　月出 前 六、〇六

日没 五、〇五　月没 後 四、三四

滿潮 前四、五五 後三、一〇　干潮 前一〇、〇〇 後一〇、五〇

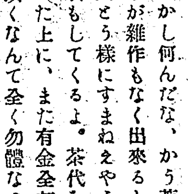
四日（節分）

日出 六、三六　月出 前 六、四六

日没 五、〇七　月没 後 五、五一

滿潮 前五、二五 後四、一〇　干潮 前一〇、四 後一一、三〇

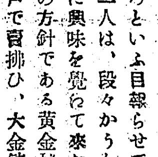
舊十二月三十日　新二月三日　日曜　庚戌　大安　收　屋宿



諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神[illegible]館

▲一白の人 物事圓滿に運び先き先きまで有利なるべし▲二黑の人 事の大小となく手違ひ生ぜぬ樣注意すべし▲三碧の人 通路を誤り深みに落ち込み易き日家居安全▲四綠の人 せい窓を以て進めば何事も圓滿に遂げ得るべし▲五黄の人 自惚心を起さず大小となく目上に從ふも吉▲六白の人 氣を焦つときは極端の變化を生じて悔あり▲七赤の人 進んで得るなく退ても損すること多し▲八白の人 不得手の事を持込れて思案に餘るべき日▲九紫の人 自ら卒先して勵むときは圓滿の裏に發展す

舊一月一日　新二月四日　月曜　辛亥　先勝　開　張宿



▲一白の人 空想を逞ふする時は貨利に遠かり行くべし▲二黑の人 人に迷はされず一路常業に直進すべき日▲三碧の人 引立てもあれども敵を受くる事も多し▲四綠の人 刻々と吉運には向へども油斷の出來ざる日▲五黄の人 事の半ばにして深き迷に入り敗れを招く日▲六白の人 けんそんと博愛とは總ての惡感を美化し去るべし▲七赤の人 一時の難苦を忍べば午後は大吉の日と成る▲八白の人 不況は世間並みと思ひて忠實に勵くべし▲九紫の人 立てし目標に一直線に進めば大發展す

廣告

マグネット ダイナモ バツテリー
試驗機完備は確實を語る
久野電氣工業所
平紺屋町（呼電）三六六番

株式賣買、債權取立
合資會社 三共商事
平町大町 電三六〇

舊正月二日 景品付大賣出し
吸入[illegible]
度量衡 モノサシ マス ハカリ
体温器 寒暖計
◎秤ノ取替・縮・歪・修理・糸・覆致シマス
關内藥局 電話四〇番

商品券御利用下さい

火鉢附煉炭特賣延期
賣行良好ノ爲メ御禮トシテ、二月六日（舊正月三日）迄延期致シマス。
福島縣、宮城縣、岩手縣、茨城縣ノ一部 代理店 酒井伴城商店 電六六一
濱三郡特約店 三丁目 磐崎屋酒店 電六六三
四倉 昭和産業合資會社 電一八
地方販賣店 四丁目 菅野屋肥料店
四丁目 渡部米店
小名濱 磐崎屋本店
湯本 草野雜貨店

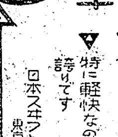
舊正二日 景品附特價大賣出し
一本で十年完全無缺を誇る 錦網傘
各位樣も是非一度御使用して眞價をお試し下さい
尚名入註文に應ず
郡代理店 磐城平五丁目 田口はき物店 電話三七七番
（小僧さん入用）

新裝パイロツト
舊正月來仕
本三金圓以上へ 丸形・認印・無料・彫刻
本二圓・二圓半へ 御名入無料
期間・舊二日ヨリ十日間
五ヶ年保證・修理無料
パイロツト專門特約店
角忠 佐々木商店
平紺屋町角公園前 電話二二三番 振替仙台一二二〇番
ダンヒルナミキ萬年筆製造元

小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
（入院應需）

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

機關銃印自轉車
三大特徴
全迴轉部 新案特許
1 全鋼鐵壓搾
2 防塵水裝置
3 自動注油式
▽使用年月他車の數倍
▽特に輕快なのは本車の誇りです
日本スヰフト工場中西販賣部 東京市谷御徒町三ノ四一



機關銃印普及車 四十九圓七十錢
指定販賣所 フタバ商會 平・新川町・橋際

銘木ト建築木材ノ御用命ハ今一番勉強スル當店へ
内外銘木 建築材一式 便利瓦
平町紺屋町
㊍織田材木商店 電話四六〇番
檜優良材碁將棋盤アリ格安讓リタシ。

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店
本店 水戸線下館驛前 電話六一番
營業種目 石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡摩油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）（八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店
海上給油及油槽所 大津、平潟、小名濱、江名濱

洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六番

武人代議士

政友會本部特派員 八角海軍中將が 叫ぶ刻下の非常時局
十一日内郷支會總會に臨む

内郷政友支會では來十一日の紀元節をトし午後一時より昭和館に於て總會を開き諸般の協議打合せをなすが當日は岩手縣選出代議士在郷海軍中將八角三郎氏が本部特派員として臨席、時局に關する一場の演説を試みる事に決した、因に同代議士は夙い頃の海軍大學出身で部内の俊髦と謳はれ、極く最近では『東北地方振興に關する卑見』及び『軍縮會議に對する一考察』の論文發表あり、之の該博な識見を傾けて地方同志に呼び掛くる丈けに少からず大衆の共鳴を得るものと今から其の盛況を豫想されてゐる

本格的常備消防
愈々來年度から實施 昨委員會で決定

平町では既報の如く舊臘來夜間のみ出動の半常備消防隊を實施して來たが尚遺憾の點あるので明年度より晝間も運轉手外計五名の本格的常備消防隊を編成すべく昨一日午後から開かれた警備委員會に於て約二千六百圓の豫算を計上した、尚警備費金額豫算は昨年と大差なく一萬二千圓位に上るであらうと觀られて居ると

入山餘技展
明後四日から公開

入山炭鑛從業員の餘技展覽會は明後四日より三日間同社神苑倶樂部にて、七日より九日迄東倶樂部に於て開催一般に公開するが出陳物は手藝品、各種繪畫、寫眞其他數十點であると

微弱乍ら依然增送
去月下旬中の炭況

仙鑛管内容臘中の石炭增産は既報の通りであるが去月二十一日以降三十一日迄の分を見ると

營業用四、五九七車 五六、八〇二噸 省用二、二〇〇車 二七、二〇六噸 合計六、七九八車 八四、〇〇八噸

で前年同期に比し

營業用二六車 八六六噸增 省用三一車增 一六六噸減

差引五十八車七百噸の增で同月分を通算すると百廿六車四千二百九十二噸の增となつて居る

圖書競技展
けふ第二校で

平第二校の第一回圖書習作コンクールは今二日は午後一時より尋四以下に對し磐中圖畫科擔任近藤教諭臨席の下に行つた、來る九日は尋五以上を行ひその上で賞狀を授與すると

浪花節で納税宣傳
平税務署窮餘の策

平税務署では納税思想普及のため近く岩手縣九戸郡夏井村浪曲家小林斎氏を招き各町村に於て納税美談の浪花節會を開く事になり目下各町村と打合せ中で尚管内主要町村(一般及學生)より懸賞つきの宣傳ポスターを募集すると

平紹介所活動近況
身賣防止と職業紹介

身賣防止と職業紹介に關する四家平職業紹介所長の田村山間方部行脚は丁度煙草收納の多忙季に際し良くその趣旨が徹底せず各村當局でも再來を要請して居るので同所長は今月中旬の舊正月休み頃再び出張する筈である、尚去る二十八日來双葉山間部へ出張中だつた同所神長倉書記は昨一日歸廳した

新にも增して 慌しい師走氣分
人・人・人の尖銳化

あすが舊の大晦日。街はたゞ狂操と焦慮の坩堝。各商店の賣出の旗はもどかしそうに身悶してる、師走氣分を彌が上にいら立たせるトラックは我が物顏にアスファルトを滑る。極度に緊張してる集金小僧の顏、常には自烈たい程徐行して客を拾ふ乘合自動車も今日はそうした餘裕があらばこそ、三、四丁目邊はうつかりよそ見も出來ぬ慌しさ、とまれ街は今師走氣分のクライマックスに馳け上る

瑞寶寺へ三名
凶地兒童收容決定

内郷村瑞寶寺住職宮下秀賢氏は喜多方方面に於ける貧困兒を養育すべく過般來同署にこれが斡旋方を依賴中であつたが人選の結果河沼郡登世島村字上小島佐藤直次郎氏四男直記(三)君外二名に決定近く引取る事になつたと

出るは戻すは
俄然激增した 平局の現金流出

忙がし乍らも四、五日前迄は一日の拂出二萬乃至三萬に留まつて居た平局の窓口は一昨三十一日五萬二千五百二十二圓四十九錢、昨一日四萬四千六十五圓二十七錢と俄然急ピッチを上げ手許在り金も兎角不足勝ちとなり、昨日は常磐銀行から三萬圓を持ち込み、今二日は午前十時半迄に既に三萬圓を運んだ

電信も倍加
非番まで動員

電信も新歲末以上に中繼、發信、着信併せて約三千、通常の二倍に上り普通十五人位の係員を非番迄動員して二十名以上で處理に懸命

郷土の史的時事解說 (二)
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に内擴安置五佛像國寶各指定に就て (三)

勿來生

奥州藤原三代の畢世の遺業は、今幾に右の光堂(金色堂とも)で片見され、其の影響は白水阿彌陀堂にも之を及ぼして現存してをるではないか。以上の少例は奥羽人を代表する文明意識の尊き形骸でなくて何んであらうか

話しは少しく横に走つたが、眞衡は子孫の血統と超越を重んじ、其の繁盛から延いては東北より内地に對つて、逆に物質、精神の文明を創建しやうと志し、是れが切なる願求、拮抗の下に、其の根本手段として竟に平安忠の子を迎へて、己れの全力を紹がせるに定まつたから、凡慾な親族では大いに怒駭したのは無理のないことであらう。按ふに安忠は此の時分は、菊田乘出羽權守か、又は菊田より榮轉して出羽だけの權守(國司即ち守の次官)となり當府に在廳中、眞衡が彼れに接近して成衡を懇請したのであらう

尋いで夫れが得た以上は之に配すべき三國一の花嫁を探がすのが眞衡の希みであつたに違ひない。此の間の事情は、彼の奥州後三年記の一節に見るもので、即ち之を抄きがきすると

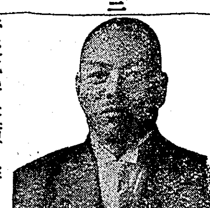
永保のころ、奥六郡がうちに清原眞衡といふものあり、荒河太郎武貞が子鎭守府將軍武則が孫なり(中略)眞衡子なきによりて、海道小太郎成衡といふ者を子とせり、年未だ若くて妻なかりければ、眞衡、成衡が妻を索む、當國の内の人は、皆從者となれり、隣國にこれを求むるに、常陸國に多氣權守宗基といふ猛者ありその娘をのつから賴義朝臣の子をうめることあり賴義むかし貞任をうたんとして、みちの國へくだりし時、旅のかり屋のうちにて彼女にあひてけり乃はじめて女子一人をうめり、祖父宗基これをかしづき、養ふ事限りなし眞衡この女をむかへて成衡が妻とす

云々とあるのが、成衡、德(此の名なるかは固より不詳)姬の二人が濟原家に養子入した根本史料であらう尤も右の記(實は後三年合戰繪卷物の詞書を、後世假りに斯く名づく)傳より古るくから之を述べられて來た史料が他にあるとせば、其れはとりもなほさず濟原系圖であらう。同圖の一種から成衡に就いての註りがを示すと次きの如くである

△△△——

△△△——

江口社長永眠
仁俠の士として深く惜まる 明三日茶毘に十九日葬儀



平町堀江工業社長江口忠一氏は昨報の如く猝かの發病に各方面をして豫後を氣遣はしめて居たが藥石効無く遂に今二日午前八時五十分長逝した、行年五十七歲、明三日茶毘に附し、十九日午後二時長橋町性源寺に於て佛葬を執行すると

氏は明治十四年三月三日熊本縣に生れ、弱冠十七歲佐世保鎭守府内船臺築造工事に當る大串組の現場監督に入つて既に其の後敏を認められ、三十四年十二月工兵第十二大隊に入營、日露戰役に從軍して工兵曹長に任ぜられ勳功により士官適任證並勳七等功七級を賜つた、三十九年十月より四十四年十月迄世田ケ谷砲兵隊及宮内省内匠寮等の工事監督に從事し、更に大正五年より鎭海灣要港部、釜山港埋立工事等により幾多の經驗を得て大正六年堀江工業を創設東北諸負業界に旗上げした、爾來鐵道省を始め各縣土木課、横須賀鎭守府其他大小幾百の工事を請負ひ、東京、青森其他數ケ所に支店出張所を設けて業界に活躍し、栃木縣西鬼怒川發電所工事(四十八萬八千圓)を始め、江名、四倉の築港、其他氏の生前に於て行はれた大工事は枚擧に遑無く、尚は現に繼續事業として從事中の青森縣に於ける數百萬圓の築港其他工事中のものも少くない、性仁俠に富み、氏の推挽援助を得て今日あるの士多く、各方面から深くその他界を惜まれて居る(寫眞は江口氏)

兎許りか柿も盜む
餘罪も續々發覺したが 親心に免じ一先づ宅預け

昨報—親の心も知らぬ兎泥!。好間村大字今新田久保木隆(三)は平署で取調べた結果昨年十月頃より同村伊藤庄助所有外前後二十數回に亘り身不知柿を捥つ拂つてはこれを平町邊の果物屋に捨て賣りし、その金を遊興費に充てゝゐた事等も判明したが信じきつてゐた親からの搜索願もあるので昨一日嚴重說諭の上實父初太郎に引渡し、書類のみ送檢する事になつたと

救濟米
けふ施與

平助成會では舊歲末貧困者救濟のため今二日町内九十四戸三百五十八名に對しその人數により五十錢乃至二圓に白米一升を惠與した、尚田町松月堂事金子重次、鍛冶町吉田屋呉服店事吉田ヒロ兩氏は各白米一俵、一丁目菅本米店からも同樣若干の寄附あつたので町では直に前記人員に割當て施與した

もち米値上げ

平米穀商組合では品不足と舊年末の需給過多のため昨夜協議の結果糯米を左の如く各一駄五厘づつ値上げ決定今二日發表した

田糯二四錢(一駄)陸糯二三錢

從つて田糯三十五錢、陸糯三十三錢となつた譯

特別執行
歲末警戒 今の處至極平靜

平署では舊歲末警戒のため愈々昨一日夜から來る五日迄の二日市迄管内各駐在をも總動員して特別執行を開始したが第一日の昨夜は神谷村鎌田邊に居住するインチキ御札賣り檢束一件のみで大した獲物はなかつたと

投書 投書歡迎
先づ手近な處から。。。。

◇平町の都市計劃は誠に結構、そのお膳立てとして隣接關係部落の測量も必要だらうし、交通衛生の調査もせねばならぬであらうが先づ物ごとは手近な處から始め、もう此れで充分と云ふ處で外の方へ手を伸ばすのが順序だ

◇近代都市の建設に當面せる大平町の現狀が果して良く足許の調べや施設が完全に行はれて居るかどうか?否々吾人は不幸にして『未だし』の一語を以てせねばならぬのを悲しむ

◇數へ立てたら蓋し一二にしては止まるまいか、先づ最も顯著なるものに古鍛冶町一部の下水溝を擧げ度い、アノ薄氣味惡い色をした汚水が漫々として一朝雨が降ると路上に氾濫するあの現狀を

◇下水の改善は所謂都計の重要なる地位を占めて居るのは先刻御承知の筈だと あの儘では一部の清教徒が宛然メッカかエルサレムの樣に憧れて居る靈域を瀆す事も甚しく、そこの信者で無くもSOSを叫び度くなると云ふものだ(古鍛冶町お都計生)

自棄の街上毒を仰ぎ「人生」を死で清算
末路悲しい肴屋隆男

今二日午前一時頃一丁目常盤屋時計店前を足元フラ〳〵と徘徊する擧動不審の男あるを警官が誰何すると『苦しい。かまつて呉れるな』と云ふ前後の模樣が怪しいので更に調べるとどうやら服毒してゐるらしく脈も殆どないので直に共濟病院に昇ぎ込み應急手當をしたが、この男は平町才槌小路四生れ猪狩隆男(二九)で永く郡山市内で魚行商中性病を思ひ商賣も思はしくなく親戚に寄寓中妻に逃げられ、三日前平の親戚をたよつて來たものゝ相手にされぬを悲觀、所持の魚切庖丁で自害せんとしたが氣遲れし植田町の某藥店から購つて來たと稱する猫いらずを嚥下苦悶中と判明したが今早朝同病院で絶命したので平署では遺骸を驛前の親戚某氏に引渡した

凶作事業費
郡下へ第三次配當

凶作對策事業費第三次配當額本郡關係は左記八村金額一萬一千九百十六圓である

山田	一、〇〇〇
田人荷路夫貝泊石住村組合	一、九六〇
澤渡三坂村組合	九〇〇
上遠野	二、五〇〇
入遠野	一、七〇〇
川部	一、〇〇〇
川前	一、八五六
上小川下小川村組合	一、〇〇〇

平鐵倶樂部今年度行事

平鐵道倶樂部では一昨三十一日打合會で本年度行事を左の如く決定した、尚ほ春秋二回の家族慰安會は從來通りである

一月謠曲 二月撞球、麻雀 三月棋碁、書道 四月謠曲、辯論 五月撞球野球 六月庭球 七月弓道、麻雀 八月撞球、棋碁 九月劍道、辯論、書道 十月謠曲、音樂、野球、弓道 十一月撞球、庭球、麻雀各大會

十二娘を侵した 江名の痴漢
けふ身柄送檢

僅か十二才の貰ひ子を凌辱した江名町寫眞館二見莊事金井寛治(四〇)は平署の取調べに對し徹頭徹尾犯行を否認したが罪狀明白となり今二日身柄を檢事局へ送られた

庶民金庫日曜廢休

平庶民金庫では明三日の大晦日に一般の便宜を圖る爲日曜を廢し平日通り執務、四日の月曜を休む

政府米追加決定

永戸、箕輪組合村は政府米第一回の追加として六百二十九俵を交付される事に決定した

イタチ密獵

浪江町大字牛渡字竹ノ花二四日雇上杉吉太郎(四三)は舊臘二十日頃から去月七日頃迄同町樋渡の請戸川岸に罠を設け牡いたち五頭を捕獲した事發覺此程平區より略式罰金二十圓

米泥に一ケ年

昨報—白米專門泥勿來町大字道山字内坂四日雇赤津音次(四九)に係る窃盜事件は今二日午前十時より小林判事係り白水檢事關與、公判開廷、求刑通り懲役一年を即決言渡された

吉例正月二日
景品付割引初大賣出し
(但し壹升ニ付十錢ヅヽ)
銘酒 近盛
馬目支店
田町大通り 電話二五四番

吉例福引景品付
初大賣出し
舊正二、三の二日間
御買上一圓毎に福引券一枚進呈
平町一町目
和久井屋漆器店
電話四〇五番

流行ノ下駄ト草履ハ
ドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
(小僧サン入用)

鑛業株賣出
第一鑛業(金額拂込)
三東鑛業(金額拂込)
御報次第店員參上詳細御說明致シマス。
公社債株式現物賣買
角治株式店
福島縣平町田町五四
電話七三番

父堀江工業株式會社取締役社長江口忠一儀去月三十一日突然發病藥石効無ク二日午前八時五十分死去致シ候間此段御通知申上候

追テ來三日午後二時不取敢茶毘ニ附シ十九日午後二時長橋町性源寺ニ於テ佛式ニテ葬儀相營ミ候

一月二日

平町搔槌小路

男 江口軍二

江口清一

親戚總代 堀江定一

堀江工業株式會社 代表 鈴木唯治